

さえずる鳥に 思いをはせる 大阪・河内長野市 森本 和代(在宅人工呼吸療養中)

幼き日 かわいがられし 叔母なれば 危篤と聞いて 安否待つのみ

おばが呼び 三人の孫 揃いたる 幼き日うつす 葬列のなか 叔母の葬儀の日

静寂の ロビーの片隅 待つ時は 今の姿を 見つめんわが身

駄々こねた 君は歩みを 止めもせず 今や子らを 導きたいと はるき君へ

君が来て 力みちたる 部屋になる 物怖じもせず いくしまれる ちひろ君へ

久々の 心休まる 時をえて つれ行く人に 苦労しても 神経内科クリニック

カーテンの ふくらむ姿 風かんじ さえずる鳥に 思いをはせる

涼風を 寒しと思う 日の早さ 刈り入れの香を 嗅ぐ暇もなく

同じ部屋 顔しか見えぬ 人の聞く サザンを通じ 時をとにもす

誰のせい 悲しき自問 繰り返し 人に当たりし わが身むなしく

動く手も 思うままには ならぬ日が 来てみて心 崩れるを知る

この病 残酷なほど 頭冴え わが身知りすぎ ますは悲しみ

新春を 祝う人見て 病ある つらき姿も 忘れてすごす